【別紙２】

〈授業改善推進プラン　令和４年度第４学年　国語科〉

１．「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・令和４年度の学力調査の結果は，全国平均とほぼ同程度で，おおむね良好な状況である。ただし，活用に課題がある。特に「文章を書く」（平均正答率 20.8%　全国平均 57.0%）に課題がある。令和３年度の学力調査における「文章を書く」の結果は，平均正答率 38.9%，全国平均 65.2%であることから，あまり改善されていないことが分かる。このことから，特に「文章を書く」ための力を付けることが，国語における課題である。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和２年度授業改善推進プラン記載内容

・国語の授業を中心に語彙を増やす活動を取り入れる。

（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

・詩や俳句，短歌等の短い文章を，折にふれて書く。

・物語の感想文や説明文の要約，お礼の手紙や新聞の作成等，比較的長い文章を書く機会を数多く設定する。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞	＜検証方法＞
①各単元の学習内容に合わせて，文章を書く活動を取り入れる。	❶単元テストでの達成率。

４．検証結果（成果と課題）【年度末に記入する】	**５．令和５年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】**
＜成果＞ ＜課題＞	・ ・

６．令和５年度（次学年）末に期待する児童（生徒）の姿【年度末に記入する】

【別紙２】

〈授業改善推進プラン　令和４年度第４学年　社会科〉

１．「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・令和４年度の学力調査の結果は，全国平均とほぼ同程度で，おおむね良好な状況である。しかし，前学年で学習した「買い物調べ」（平均正答率 38.9%　全国平均 64.4%）に課題が見られた。問題を分析すると，スーパーマーケット，コンビニエンスストア，商店街での買い物といった，本校児童にとって生活経験の乏しい分野が苦手であることが分かった。教科書だけでは，知識や技能は定着しないということが課題である。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和２年度授業改善推進プラン記載内容

・該当項目なし。

（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

・タブレットを用いてインターネットで調べ学習等を行い，直接経験することが難しい内容も，間接的に経験させる。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

①教科書で学習する内容の確実な定着とともに，ICT を活用してより深い学びを実現する。

＜検証方法＞

❶全学級児童の単元テストの正答率を，B 基準（70%）以上にする。

４．検証結果（成果と課題）【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

５．令和５年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

・

・

６．令和５年度（次学年）末に期待する児童（生徒）の姿【年度末に記入する】

【別紙２】

〈授業改善推進プラン　令和４年度第４学年　算数科〉

１．「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・令和４年度の学力調査の結果は，全国平均を上回り，たいへん良好な状況である。しかしながら，「たし算・ひき算」（平均正答率 58.3%　全国平均 76.1%）といった初歩的，基礎的な問題で減点されている点が課題である。令和３年度の学力調査における「たし算・ひき算」の結果は，平均正答率 79.2%，全国平均 78.5%であることから，明らかに計算ミスであることが分かる。このことから，ケアレスミスをなくすための力を付けることが，算数における課題である。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和２年度授業改善推進プラン記載内容

・一年間を通して計算問題に繰り返し取り組ませ，基本的な計算ができるようにする。

（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

・確かめや見直しを徹底させ，基礎基本の徹底を図る。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞	＜検証方法＞
①教科書やドリルの練習問題を，すべて正解になるまで復習させる。	❶小テストや単元テストにおいて，満点を取るまで再テストを行う。

４．検証結果（成果と課題）【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

５．令和５年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

・

・

６．令和５年度（次学年）末に期待する児童（生徒）の姿【年度末に記入する】

【別紙２】

〈授業改善推進プラン　令和４年度第４学年　理科〉

１．「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・令和４年度の学力調査の結果は，全国平均を上回り，たいへん良好な状況である。しかし，前学年で学習した「身近な自然の観察」（平均正答率 66.7%　全国平均 71.7%）に課題が見られた。問題を分析すると，校庭や身近な野原などでの動植物の具体的な観察方法等が未定着であることが分かった。実際に何度も経験しないと，知識や技能は定着しないということが課題である。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和２年度授業改善推進プラン記載内容

・該当項目なし。

（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

・観察や実験を何度も行い，その方法を確実に身に付けさせる。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞	＜検証方法＞
①教科書で学習する内容の確実な定着とともに，観察や実験を通してより深い学びを実現する。	❶全学級児童の単元テストの正答率を，B 基準（70%）以上にする。

４．検証結果（成果と課題）【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

５．令和５年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

・

・

６．令和５年度（次学年）末に期待する児童（生徒）の姿【年度末に記入する】

【別紙２】

〈授業改善推進プラン　令和４年度第４学年　音楽科〉

１．「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

令和４年度の「学びのスタンダード授業アンケート」において「授業が好き」と答えた児童はＡ８４％，Ｂ１６％となっており音楽への関心が高い。「学習したことをわかっている」という項目についても同様の結果であった。令和２年度にさかのぼるとこの２つの項目については全員がＡ（はい）と答えている。令和３年度のアンケートを見ると，今年と同様の結果であるため，小学３年生から少しずつ音楽理論的なことが含まれているため，難しくとらえる児童が出てきたようである。歌唱・器楽・鑑賞分野において，音楽だけではない他の知識を生かしながら積極的に意見を出す学年であり感性が鋭い。ただ器楽分野においては，せっかく，他教科の知識と絡めて考える力があるにも関わらず，実際は感覚で演奏してしまうことがある。感覚だけではなく，知識を使って演奏するときれいに演奏できると分からせることが課題である。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和２年度授業改善推進プラン記載内容

①様々な楽器，音色，リズムに親しむ

→リズム遊びでいろいろな打楽器やリズムにふれさせ，友達と合わせる楽しさを感じさせる。

②音程やきれいな発声に気をつけながら歌う

→楽しく歌いながらも声をきれいに出したり音程に気を付けたりできたときに称賛し，意識させる。

そのために，音程を取りやすいようにピアノでメロディラインを聴かせるなど，具体的な提示をする。

（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

①については，リズムに親しむというところに課題がある。リズムは「音楽の時間的なまとまり」を意識するための重要な要素であるため，感覚を頼りにするのではなく，もっている知識を活用できるよう授業の導入時に「リズムまねっこ」として手や打楽器を使ってリズムに親しみをもてるようにする。

②については音程が取りづらい所は身体全体をつかって表現する児童が多く，学習指導要領にも即した指導を行っており，目標はほぼクリアできている。そのため，互いの歌声や副次的な旋律，伴奏を聴いて声を合わせて歌うことを提案する。この目標については級友と自分の歌声が調和する喜びを感じ取るため，録音機器やタブレット端末の録画機能を利用し，学び合いにつなげるようにする。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞	＜検証方法＞
①学期ごとに行う授業アンケート	❶学期ごとに行う授業アンケートの内容の分析
②授業内の実技発表	❷授業内での実技発表の分析

４．検証結果（成果と課題）【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

５．令和５年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

・

・

６．令和５年度（次学年）末に期待する児童（生徒）の姿【年度末に記入する】

【別紙２】

〈授業改善推進プラン　令和４年度第４学年　図画工作科〉

１．「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・令和４年度１学期授業評価アンケートでは，「図画工作科の授業が好きか」という項目に関して，６名中６名が「はい」と答え，「学習したことを理解しているか」という項目に関しては，６名中５名が「はい」，１名が「どちらかというといいえ」と答えている。以上の調査や授業観察の結果から，授業への興味・関心は高いが，学習内容の確実な定着については，改善が図られるとよいと考えらえる。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和２年度授業改善推進プラン記載内容

・【課題】①制作を通して自分に向き合い，作品に愛着をもつ。②制作や鑑賞を通して作品から良さを味わう。

【改善策】①制作の前にどんな作品を作りたいのか構成を練らせ，自分の思いや考えを大切にして制作に取り組ませる。②制作した作品の発表会を行い，自分たちの作品のよさを味わえるようにする。

【評価】①制作の前に設計図を作成したことでより一層作品に愛着をもつことができた。②友達の作品を鑑賞し，よさを見付けることができた。

（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

・鑑賞活動においては，感じ取ったことや思ったこと，考えたことなどを，話したり聞いたり話し合ったりする，言葉で整理するなど，言語活動の充実を一層図る指導を行う。

・表現活動における造形遊びの過程や振り返りにおいて，児童自らがタブレット端末やデジタルカメラを活用することで，図画工作科の学習におけるメタ認知能力を高める。

・アナログの造形日記による振り返りとデジタルのタブレット端末を活用した振り返りをハイブリット化し，造形的な視点による創造性の涵養を図る。データに関しては，評価評定に活かし，指導と評価の一体化及び授業改善に役立てる。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞	＜検証方法＞
①年間２回の授業評価アンケートの実施	❶年間２回の授業評価アンケートの実施内容分析
②日々の表現及び鑑賞活動の授業観察及び授業改善	❷授業デザインの学期ごとの検討及び指導と評価の一体化を踏まえた次年度年間指導計画の作成

４．検証結果（成果と課題）【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

５．令和５年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

・

・

６．令和５年度（次学年）末に期待する児童の姿【年度末に記入する】

【別紙２】

〈授業改善推進プラン　令和４年度第４学年　体育科〉

１．「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・令和４年度の体力テスト結果はまだ出ていないため，令和３年度の体力テストから分析する。男子においては，長座体前屈，反復横跳び，２０ｍシャトルラン，５０ｍ走，立ち幅跳びについては全員が全国平均を上回り，握力や上体起こしについてもほぼ全国平均と同程度という好成績である。その一方，ソフトボール投げは，１名を除き全国平均を下回っている。女子においては，反復横跳び，２０ｍシャトルランについては全員が全国平均を上回り，握力についてもほぼ全国平均と同程度という好成績である。その一方で，長座体前屈，立ち幅跳び，ソフトボール投げは１名が全国平均を下回り，上体起こし，５０ｍ走については全員が全国平均を下回っている。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和２年度授業改善推進プラン記載内容

・時間ごとに重点的に指導する内容を絞り，一つ一つの動きや技能を確実に定着させる。

（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

・楽しく体を動かすことができるように，ルールを工夫して運動量を増やすとともに，重点的に指導する内容を絞ることで，一つ一つの動きや技能を確実に定着させる。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞	＜検証方法＞
①楽しみながら反復練習できるようルールを工夫し，基礎的基本的な技能の確実な定着を図る。	❶各種目の最終回に技能の定着度のテストを行い，B 基準（達成率 70%）以上にする。

４．検証結果（成果と課題）【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

５．令和５年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

・

・

６．令和５年度（次学年）末に期待する児童（生徒）の姿【年度末に記入する】